

ツルネコノメソウ *Chrysosplenium flagelliferum* F.Schmidt

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。温帯性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

小型の多年生草本で、高さ 3~15cm になる。地上性の走出枝があり、花茎の葉と同形の葉を互生し、花後に成長して先端で発根し、新個体となる。根出葉は長さ 5~8cm の柄があり、葉身は円形で基部は心形、長さ 2~3.5cm、辺縁に 7~17 個の鋸歯があるが、花時には枯れることが多い。茎葉は小さく、扇形で長さ 2~8mm、幅 3~9mm である。花期は 4~5 月、集散花序を頂生し、直径 3~6mm の花をつける。がく裂片は 4 枚、広卵形で花時に平開し、緑色または黄緑色、長さ 1~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 26368, 2012-5-5)。  
西：20 足助 (村松正雄 16750, 1996-5-25)。  
各 1 カ所に小群落がある。

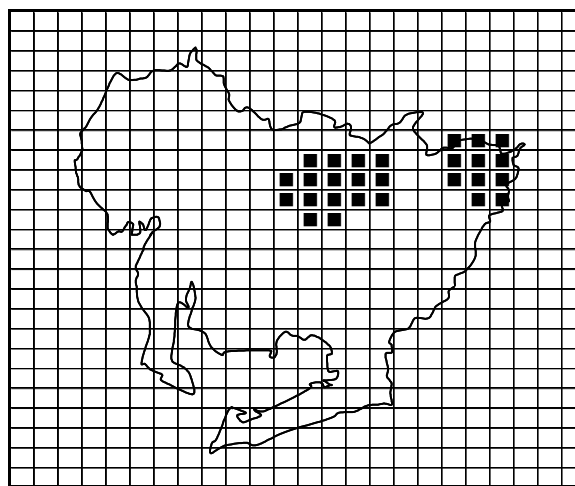
【国内の分布】

北海道、本州 (近畿地方以北)、四国 (剣山)。

【世界の分布】

千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

スギ林内の沢の源頭部に生育しており、現在のところ生育状況は良好であるという。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全する必要がある。

【特記事項】

タチネコノメソウ *C. tosaense* (Makino) Makino に似ているが、地上性の走出枝がある。

【関連文献】

保草II p.140, 平草II p.160, 平新版 2 p.204.